



アジアにおける がん診療・研究開発をリードする

中釜 育
国立がん研究センター 理事長

医療・研究開発を巡るアジアへの展開構想

ビジョン

1. 日本型医療の浸透
2. アジアに多い疾患の治療開発をリード
3. アジアに多い疾患克服のための原因解明

プラン

1. 医療従事者の受け入れ研修
& 海外における技術指導(ライブデモなど)
2. 医薬品・医療機器・再生医療製品の開発の先導・共同
3. 基礎研究の振興への協力
4. 疾患登録の指導・普及
5. 疫学領域の国際共同研究

今後の課題・政府への期待

- ・医薬品・医療機器・再生医療等製品についての
“アジア国際共同臨床試験体制”の構築をリード

PMDA国際戦略2015「アジア医薬品・医療機器薬事トレーニングセンター」
AMEDシンガポール事務所 との連携。

アジア各国には臨床試験と健康保険を両立できる“保険外併用療養”の仕組みが無い。

- ・築地市場跡地に“食と健康”のエビデンスを生み出す
ライフサイエンスの拠点を作り、アジアへの展開を図る

MEJ “ジャパン インターナショナル ホスピタルズ” 等の各種事業

- ・アジアにおけるゲノム医療を牽引する

がんゲノム情報管理センターに、アジア各国のゲノム情報を集約することを目指すと共にアジアにゲノム医療のノウハウを提供し、啓発する。

アジアがん早期新薬開発コンソーシアムを束ねる

Asian Oncology Early Phase 1 Consortium



「アジア地域における強固なフェーズ1コンソーシアム確立」

- アジアの主要早期新薬開発（トップPhase 1施設）施設間におけるコンソーシアム体制構築
- 国内外製薬企業早期新薬開発部門とアジアにおけるKey Phase 1 Investigators 間の連携強化
- アジア国際共同早期治験（製薬企業主導）およびNCC主導によるアジア国際共同医師主導治験実施
- アジアにおけるKey Phase 1施設間における研究者・臨床試験支援部門等の人的交流促進
- アジア各国における薬事規制要件等の差異に関する調査および情報共有
- アジアにおけるゲノム医療促進・希少がんに対する新薬開発の促進

日本・中国・台湾・シンガポール・韓国におけるアジアトップフェーズ1施設間の連携

アジアにおけるがん早期新薬開発に特化した研究者間の強固な連携体制構築



中国

(香港特別行政区)
香港中文大學醫學院
プリンスオブウェールズ病院



日本

国立がん研究センター
中央病院



台湾

国立台湾大學醫學院
附設醫院



シンガポール

国立シンガポール
がんセンター

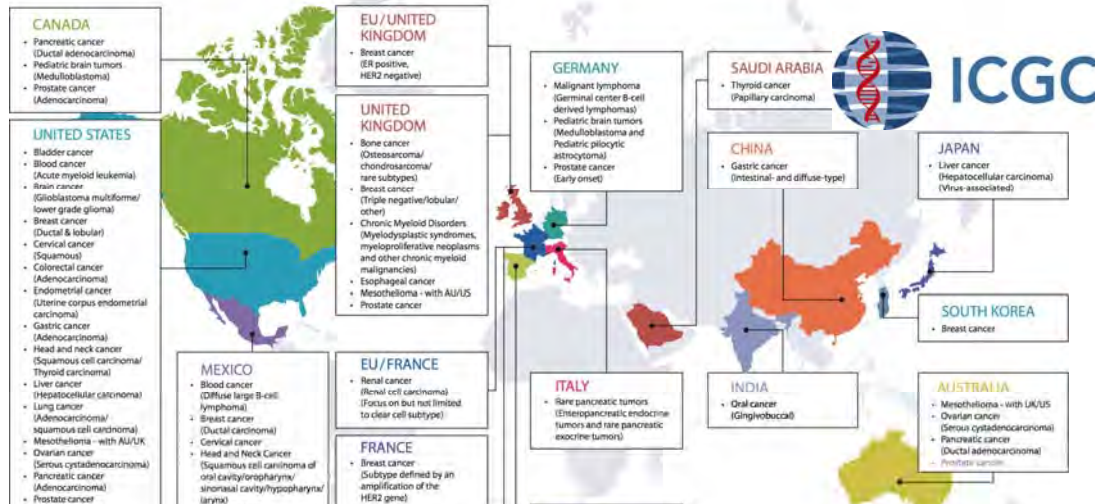


韓国

国立ソウル大学病院

国際がんゲノムコンソーシアム

(ICGC: International Cancer Genome Consortium) における国際貢献



2008年に発足し、現在17カ国(日・米・英・独・仏・伊・中国・韓国・インド・サウジアラビア等)が参加し、90のがんゲノムプロジェクトを進行している**世界最大のがんゲノム研究共同体**。

現在日本は、アジアにおいて、医療政策上、極めて重要な肝臓がん・胆道がん・胃がんの3つのプロジェクトを推進



1. アジアにおいて重要ながんのゲノムデータを産出することによる国際貢献・リーダーシップの確保
2. 日本人症例における大規模がんゲノムデータベースを構築することで、本邦における臨床シーケンス・臨床開発を支援